

炎天下 生きる力鍛える

4泊5日100km徒歩の旅スタート

(続報)第5回「おのみち100km徒歩の旅」が6日スタートした。小学4〜6年生101人が10日までの4泊5日、親元を離れて市内に設定された100kmのコースを歩き切る。【幾野伝】

親元離れ

初日は保護者も参加して午前8時から千光寺公園グラウンドで結団(出発式を開いた。実行委員長で団長の榎本和彦さん(尾道青年会議所OB)が「100km徒歩の旅は限界に挑戦、と言われているが、その限界は自分でつくるもの。5日間、辛くしんどいこともあると思うが、乗り越えて逞しくなつてほしい。そして両親や家族への感謝の念を忘れずに歩いて下さい」と主催者あいさつ。

来賓の半田光行教育長が「エアコンの涼しい部屋で過ごしても5日間、太陽半ラギラの下で歩いても同じ5日間。そのしんどい方を選ばれた皆さんに心から敬意を表したい。これからの人生、良いことばかりではないは

ず。そのピンチの時に負けない人になれる方は、炎天下での5日間の中から生まれて来るはず。友達をたくさん作つて、より磨きの掛かった小学生になつてほしい」と激励した。

全員で広島原爆の犠牲者に黙祷。児童と共に歩きながらリードする尾道大学はじめ、県内の大学生58人によるボランティアスタッフが1人ずつ自己紹介(写真左上)。児童を代表して今年で最多4回目の参加となる向東小6年、松本琢磨君と栗原北小6年、高橋綾香さんの2人が、「皆で仲良く協力し合い、5日間歩き抜きます」と元気良く宣誓(写真左下)。学生ボランティアは代表の広島大学 重慶孝さんと城田ゆかりさんが決意表明した。

9時に保護者に見送ら



れて出発。千光寺から西國寺―浄土寺―瑞璃山展

望台―三成小と初日は短めの13kmを歩いた(写真右)。児童らは沿道の市民に「お早うございます」「こんにちは」とあいさつして通り、「頑張つてね」と声を掛けられていた。

